



9月から調理・配送
が民間委託される
こもり
郡地区調理場



ガソリンスタンドの油脂類などである。

処理水に関しては水質汚濁防止法や下水道法で規定されている水銀、ヒ素、シアンなどの排水基準42項目、汚泥に関しては肥料取締法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等で規定されているカドミウムやクロムなど30項目を検査しているが、いずれも基準値を下回っている。

検査体制については、3名の水質検査員が、処理水は毎日、汚泥は月1回検査を行い、年2回外部委託検査を実施している。

（その他の質問事項）

・農政改革について
・ポジティブリスト制度について

「給食調理場建設計画」 「センター方式」に疑問!!

伊川議員

(1) 教育行政について

学校給食について、調理場を自校方式にすることは考えられないか。今ほど食や食育の重要性が叫ばれている時はない。

給食調理場の建て替え建設計画ではセンター方式が予定されているが、給食の役割と併せて真に子どもたちの立場に立つて考えておられるのか疑問に思っています。

全国にはセンター方式から自校方式に変えている所もある。自校方式を含めて検討していただきたいが、考えはどうか。

中学校の完全給食についても建設計画と併せて検討する必要があると思うが、どのように考えておられるか。

(2) 都市整備行政について

総合運動公園の今後の見通しはどのようなになっているか。目的について、国体との関連は考えておられるか。

教育長

(1) 自校方式については、建設敷地の問題、経費的問題人的配置の問題などがあり困難ではないかと考える。センター方式になったからといって食育が衰えるとは考えていない。より

一層充実していきたい。

教育次長

現状、食器の保管場所がない等の理由で食事のマナーに問題がある。(補足*現在使用している食器は仕切りつきのトレイと飯碗、汁碗の3種類)さらに老朽化、食の安全などの問題もあり、これらを解決するため安全安心という最低果たすべき機能を最優先に論議を行った。また経費的にも、自校方式での試算の結果は、建設費は3〜4割増、ランニングコストについても配置基準が現状の26名から42名程度への増となっている。

平成23年の建設までに、どのような方向付けでいくのか検討していく。

市長

(2) 1期事業についてはその時々々の財政状況を考慮しながらそれに見合った予算で進めていく。平成26年開催の長崎国体へのソフトボール競技誘致にあわせ、多目的グラウンドなどの整備を行う予定である。2期、3期事業については中長期的な将来の展望を持ちながら検討したいと考える。

（その他の質問事項）

・家庭用のゴミ袋を、レジ袋式の結び易いものにできないか
・子ども110番の家の周知徹底
・少子化対策について
・食育月間、食育の日について

グリーンツーリズムは

どう推進するのですか
処分場の硫化水素で困っています
対策はどうなっていますか

久野議員

(1) 農業行政について

グリーンツーリズムについて基本的考えはどうか。大村市基本構想では、ツーリズムをどう位置付けられているのか。

グリーンツーリズムにかかわるどのような資源が存在するか。

その調査・研究はどう進んでいるか。

グリーンツーリズム推進協議会など組織はどうか。

魅力的な体験メニューやプログラムの開発、商品化、人材育成、情報発信はどうか。

国、県の補助事業をどう活用するのか。

学校では、グリーンツーリズムをどう位置付けているか。

(2) 環境行政について

産業廃棄物処分場から出るガスで住民は困っている。どう考えているか。

産業廃棄物処分場がもたらす健康被害についてどう対処するのか。

市長

(1) 総合計画の中で都市交流型農業の推進と位置づけており、当面は北部地区、将来的には